

令和4年11月22日（火）
愛知県農業水産局水産課

干潟・浅場造成事業について

【干潟・浅場造成事業の背景】

- 三河湾では1945年から1978年に開発事業により約1,200haの干潟・浅場が消失している
- 干潟・浅場の減少により、海域の水質浄化機能が低下し、赤潮の増加や貧酸素水塊の拡大が問題となる
- 水質浄化機能の回復や漁場造成のため、愛知県では干潟・浅場造成事業を実施してきた
- 良質な造成材の確保が課題であったが、2021年度から国土交通省中部地方整備局と連携を図り、矢作川やダムの堆積砂を活用して事業を拡大している
- 2021年度は河川砂約24,000m³、ダム砂約5,000m³を用い西尾市14号地地先で6.2haの漁場造成工事を実施している

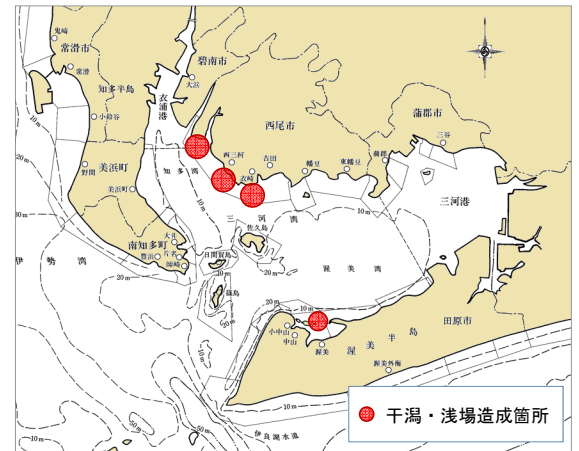


図 干潟・浅場造成の実施箇所
(2015-2021)

【干潟・浅場造成工事の概要】

- 底質の悪化した場所や貧酸素水塊の影響を受けやすい水深帯に砂を投入することで二枚貝類等の生息に適した環境にする
- 造成材となる砂を土運船で造成箇所まで運搬し、グラブ浚渫船又はバックホウ浚渫船にて投入・均しを実施
- ダムや河川の堆積砂は、粒径に適度なばらつきがあり、アサリ等の生物生息には好適

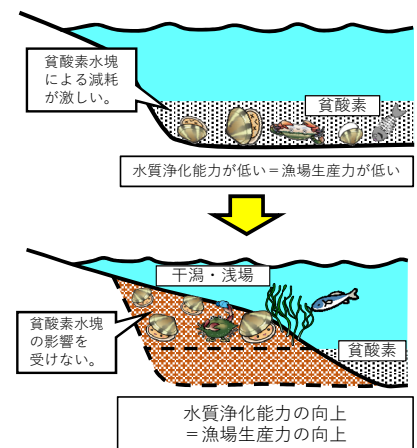
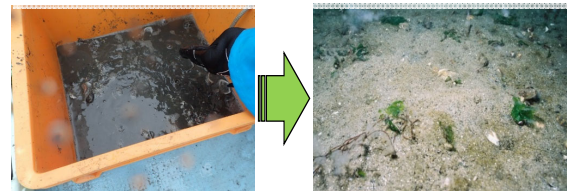


図 覆砂による環境改善のイメージ

【造成した干潟・浅場の管理および利用】

- 造成後は地元の漁業者および漁協が管理を行っている
 - アサリ稚貝放流による資源増殖
 - ツメタガイ等の害敵生物駆除や耕耘
- 水産試験場の効果調査を継続して実施
 - 底質、底生生物などを調査し、造成から数年経過後も良好な底質環境が維持されていることが確認される
 - 底質環境が改善し、多様な底生生物が加入することで、水質浄化機能が発現している
- 西三河地区では2015年に約7千tあった漁獲量が、大きく落ち込んだが、2021年から漁獲量の回復が見られ2022年度も上向きである

底質の悪化箇所を土砂投入により環境改善



漁場として利用可能に

干潟・浅場造成工事の流れ



①

①河川、ダム堆積砂の保管

→河川浚渫は渇水期（秋～冬）に行われるため、
施工時期まで漁港・港湾用地に堆積砂を保管
施工は、のり養殖を考慮し夏までに実施

②、③砂を港で土運船へ積込



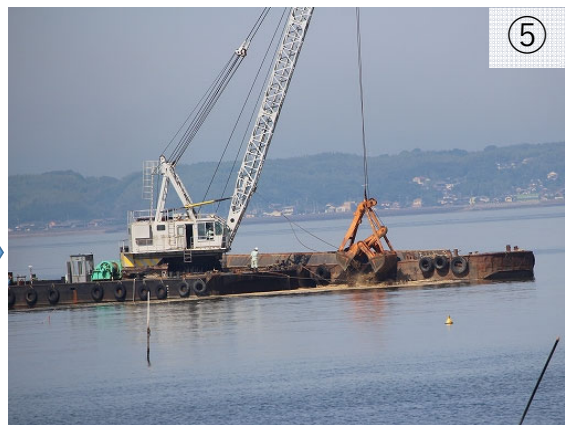
③



②



④



⑤

④積込後、造成箇所まで海上運搬

⑤グラブ浚渫船で投入・均し